

2024年3月21日
公益財団法人イオン環境財団

香港の小学校4校に環境教育教材（太陽光発電システム）を寄贈

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育事業の一環として

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役 代表執行役会長 以下当財団）は、3月23日（土）、中華人民共和国香港特別行政区（以下、香港）の小学校4校に太陽光発電システムを寄贈します。

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育事業の一環として、当財団の設立20年を契機に2009年より小中学校に環境教育教材として太陽光発電システムを寄贈しています。これまでの寄贈先は日本・中国・マレーシア・ベトナムでの合計56校となります。

当財団は、同国において、環境課題に取り組むとともに、両国のさらなる国際協力を促進するため、1993年より「日中環境国際シンポジウム」を開催し、2015年、北京市でのシンポジウムでは、北京市人民政府と合意のもと、「イオン北京環境提議」を発表しました。また同提議にもとづき、北京市密雲区での植樹と武漢市の小中学校10校に太陽光発電システムの寄贈を実施しました。2018年からは香港の小中学校にも寄贈しています。

当財団は、両国におけるより一層の友好交流促進に貢献するとともに、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、今後も環境教育をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

贈呈式日時	2024年3月23日（土）9：00～10：30		
贈呈式場所	G/F, Atrium, Domain Mall (住所: No. 38, Ko Chiu Road, Yau Tong, Kowloon)		
主催	公益財団法人イオン環境財団		
協力	永旺（香港）百貨有限公司		
後援	在香港日本国総領事館		
寄贈先	黃埔宣道小學・九龍灣聖若翰天主教小學・大角嘴天主教小學（海帆道）・香港仔聖伯多祿天主教小學		
出席者 （予定）	香港特別行政区政府 機電工程署 在香港日本国総領事館 天主教香港教区 香港九龍塘基督教中華宣道會 イオン株式会社 イオンストアーズ香港 イオンクレジットサービスアジア イオントップバリュ香港 公益財団法人イオン環境財団	能源効益部チーフエンジニア 大使兼総領事 教育事務主教代表 教育部副部長 取締役 董事総経理 董事総経理 董事総経理 専務理事	梁 雪輝 様 岡田 健一 様 龔 廣培 様 李 漢華 様 キャリアー ユー 長島 武徳 魏 愛國 芥川 一実 山本 百合子 以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社 名誉会長相談役）により、日本で初めて、地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに万里の長城での植樹をはじめとする「植樹」「環境活動助成」「環境教育」「パートナーシップ」の4つの事業活動を中心に環境活動に取り組み、現在、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【これまで当財団の中国における主な取組み】

《環境教育》

■太陽光発電システム寄贈

当財団は、設立20周年の記念事業として、日本国内外の小中学校へ2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、太陽光発電システムを寄贈してきました。2016年から2017年までの2年間、中国武漢市の小中学校合計10校に寄贈。また香港では2018年に3校、2019年にも3校寄贈しています。



(2019年 贈呈式)

〔香港での寄贈先〕

(2018年) 滬江小学・東華三院邱子田記念中学・東華三院呂潤財記念中学、計3校



(滬江小学)



(東華三院邱子田記念中学)

(2019年) 東華三院姚達之記念小学、油蔴地天主教小学、東華三院張明添中学、計3校



(東華三院姚達之記念小学)



(東華三院張明添中学)

■アジア学生交流環境フォーラム

当財団は2012年より、国連生物多様性の10年のスタート年を契機として、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」を毎年実施しています。

中国では2014年に開催し、清華大学 (中国)、早稲田大学 (日本)、高麗大学校 (韓国)、マラヤ大学 (マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校 (ベトナム) の5カ国80名が参加しました。同年の教育プログラムは開催国の幹事校である清華大学監修、早稲田大学協力のもと、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。



(2014年 中国開催ASEP)

《イオンの森づくり》

■2007年、2022年「香港植樹」

2007年、2006年の山火事により木々が焼失した大欖郊野公園 (タイラムカントリーパーク) において、香港政府による修復プログラムが行われていることを受け、2007年6月に、近隣の住民や学生、日本からのボランティアの皆さま合わせて400名とともに、2万本の苗木を植えました。



(2007年 香港植樹)

また2022年、植樹地である大欖郊野公園は、54km²の敷地内に7つの貯水池を持ち、九龍半島への水の供給源として機能しています。公園にはトレイルコースやキャンプ場もあり、市民に親しまれています。長年の植林により豊かな森林地帯となり、野生動物の生息域となっていますが、外来樹種が在来樹種の成長を妨げ、野生動物にも影響を与えているため、森林の再生活動が行われています。8月7日に、NGO団体の香港地球之友 (Friends of the Earth (HK) Charity Limited) と生物多様性の保全や生態系サービスなど自然が持つ価値の向上を目的に、地域ボランティアの皆さま150名とともに、地域に自生する12種1,500本の植樹を行いました。



(2022年 香港植樹)

■1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」

「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの皆さまのご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行いました。



(2010年 北京市万里の長城植樹)

■ 2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されてきました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島市政府からの要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの皆さまが、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■ 2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

2008年7月、烟台市政府から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの皆さま2,519名が25,000本を植えるとともに、交流により日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの皆さま1,400名が参加し、12,000本を植えました。



(2008年 山東省烟台市植樹)

■ 2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は、護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいました。同市による生態系の修復および環境再生の取り組みが行われ、当財団はその計画に賛同し、700名のボランティアの皆さまと湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し後世へ残します。



(2014年 蘇州市植樹)

■ 2016年「北京市密雲植樹」

密雲は北京市北東部に位置しており、同市で利用する水量のうち3分の2を供給する、華北地方最大の密雲ダムを有しています。同ダムの周辺住民ならびに北京市民の水資源を確保するため、日中両国のボランティア800名の皆さまとともに、地域に自生する7,500本の苗木を植えました。



(2016年 北京市密雲植樹)

≪日中環境国際シンポジウム≫

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

第1回（1993年）：テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席されたこの回では、民間レベルにおける環境協力についての大枠指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



(第1回 日中環境国際シンポジウム)

第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進を合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。

本シンポジウム内で、環境保全の必要性と重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の

再生プロジェクト」が提案されました。

第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相がご出席のもと、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会および環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



(第3回 日中環境国際シンポジウム)

第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が一堂に会し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表しました。



(第4回 日中環境国際シンポジウム)

「イオン北京環境提議」

2016年から、下記に取り組むことを表明

1. 新たな植樹活動の取組みを通じた日中ボランティアの交流
2. 日中青少年環境教育活動を協同で取り組み環境保全に関する交流の促進

《北京市人民政府からの表彰》

当財団の名誉理事長 岡田卓也は、2009年、長年にわたる北京市の社会発展に貢献したことが評価され、北京市より「北京市榮譽市民」を受賞しました。

「北京市榮譽市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高位の称号で、これまでに世界で32名が受賞しています。日本人の受賞者としては3人目です。北京市で行われた授賞式で、郭金龍（かく・きんりゅう）北京市長（当時）より「北京市榮譽市民」の称号が授与されました。



(「北京市榮譽市民」の称号を受賞)

《武漢市人民政府からの表彰》

当財団の名誉理事長 岡田卓也は2015年、武漢市国際諮詢顧問団として武漢市の発展に貢献していることを認められ、武漢市人民政府から「黃鶴友誼賞」を受賞しました。